

外池文庫について

山口隆二

一橋大学出身の外池五郎三郎氏（明治四十三年本科卒）から、本学附属図書館に寄贈された外池文庫はロッチデール・パイオニアズに関する資料を中心として、協同組合運動およびロバート・オーエンなどの社会主義運動についての図書資料のコレクションである。これは非常に特色のあるものだから次に紹介してみたい。

ロッチデール・パイオニアズが今日の協同組合運動にどのような意味をもち、またそれがロバート・オーエンとどのような関係にあるかを知るためには、ビアトリス・ウェップ女史の『イギリスにおける協同組合運動』中の次の句を引用すれば足りるのである。

「これら二十八人のランカシャー労働者（ロッチデール・パイオニアズ）は活気にみちた民主主義の株式の上に、うまくロバート・オーエンの協同的理想のある部分を接木したものであって、これから一〇〇万人の組合員と三、六〇〇万磅の年売上高と、三〇〇万磅の年々の『利潤』と一、二〇〇万磅の積立金とをもった近世協同組合運動が発生した

のである。初期およびその後の型の協同組合とはちがって、ロッテデル組合は、その中に生命の胚芽を蔵していた。というのはこの制度は、イギリスのある地方における労働者全体の物質的必要と社会的希望とに深く根ざしているだけでなく、また外部からのハッキリした奨励もなく、社会からの認識が遅れていたにも拘らず、闘争的な頑固さをもって、設立後今にいたるまで、枝を張り、芽をふやしながら、ますます広い地域にだんだんと拡がっていつていくからである。」(五九頁)

本学附属図書館には、ロバート・オーエン関係の文献が相当数所蔵されておったことは、五島茂氏の『ロバート・オーエン著作史、協同の一研究』(大阪商科大学研究叢書第一冊)の中の文献の所在欄をみれば明かである。さらに五島茂氏が同書の中に掲げている文献の重要部分を占めていた星島茂氏(現上智大学教授)所蔵のロバート・オーエン関係のコレクション全部を譲受けたので、本学は世界有数のロバート・オーエンのコレクションを所蔵していることになり、これと外池文庫とを併用すれば、その利用価値は著しく高いものとなるであろう。

次にこの文庫を蒐集したペーター・イートン氏につき一言しておきたい。彼は一九一四年にロッテデルに生まれ、ロンドンの古書籍商であり、社会主義運動に大きな関心をもっているだけでなく、また王立地理学会、日本協会などにも参加して活動している人である。

彼はロッテデルに生まれたので、その青少年時代を協同組合の中で、それに取りかこまれて成長した。彼の隣家はロッテデル消費組合の図書館長ヴィクター・クロンショー氏が住んでいた。また彼の家の近くにあったメソジスト教会の礼拝堂には、日曜日の午後になると多くの人があつまって来たが、そこで議論されたことは宗教についてよりも、むしろ労働組合についての方が多かった。またそこへ来た人々の姓名から判断しても、ロッテデル・パイオニアズの子孫が多かった。彼が働いていた印刷屋は、ロッテデル消費組合がつくられた当時からの古い店であり、

ロッチデール消費組合の最初の店が設けられたトード街とは石を投げればとどく近くにあった。このような関係から、彼は協同組合と社会主義とに関心をもつようになり、この方面の文献を蒐集しはじめたのであったが、彼がロンドンで古書籍商をはじめるに及んで、その蒐集も本格的となり、立派なコレクションが出来上がったのである。

この文庫は一、六三一部、二、一七八冊あり、次のようにAからGまでの七部門に分けられている。

- |   |              |     |
|---|--------------|-----|
| A | 総記           | 三五四 |
| B | 社会・経済学説      | 二〇四 |
| C | 社会主義・社会運動    | 二八五 |
| D | 歴史           | 五八一 |
| E | 協同組合         | 四四五 |
| F | 宗教・教育・文学     | 二六二 |
| G | マニユスクリプト、その他 | 四七  |

この文庫の中核をなすものは、G部門の協同組合に関するマニユスクリプトとE部門の協同組合関係のものであり、この協同組合部門はさらに、協同組合および協同組合運動についての一般的なもの、各種の協同組合に関するもの、個別的な協同組合の歴史に関するものの三つから構成されている。

Aの総記部門ではイギリス地方史の叢書、協同組合関係の年鑑、報告書などが含まれており、Bの社会・経済学説部門ではイギリス人の著作が多いこと、またCの社会主義・社会運動部門もロバート・オーエンを始めとした、イギリス社会主義者の著作が多く、社会主義、キリスト教社会主義、チャーティスト運動などに関するものが多い。Dの歴史部門ではイギリスの地方史が相当蒐集されており、Fの宗教・教育・文学部門ではランカンチャー地方の宗教家、

文学者などの著作が割合に多く、教育は協同組合の教育についての著作が多い。それが、この文庫の特色である。もしロッチデール・パイオニアズの歴史を研究しようとする人があれば、この文庫の中には、ホリヨークの名著『ロッチデール・パイオニアズの歴史』もあれば、ブラウンの『ロッチデール・パイオニアズ』あるいはリーヴズの『ロッチデール協同組合の一世紀』などの著作がある。これらを見ればその歴史の概要を知ることができるであろう。さらに掘り下げてゆくためには、この文庫は非常に役立つであろう。マニユスクリプト、その他部門にはランカシャー、リバプール、マンチェスターなどのいろいろの年代の地図があり、その中には一八四二年のロッチデールの地図も何枚もあり、ロッチデールの消費組合が店を開いたトード街が町のどのへんにあるかもわかる。またロッチデールのいろいろな写真、絵ハガキ、エッチングなどが沢山あり、トード街のロッチデール消費組合の店舗の大型写真が何枚もある。さらにロッチデール消費組合、その他の消費組合で一九一九年頃まで実際に使用されていた貨幣代用の真鍮製の私铸貨幣も沢山ある。

ロッチデール消費組合が一八四四年に設立された当時、印刷して組合員に配布した組合規則 (Rochdale Equitable Pioneer's Society Ltd., Laws and Objects of the Rochdale Society, Enrolled according to the acts, 10th George IV, and 4th and 5th William IV. Rochdale, J. Hall, 1844. pp. 12) の珍らしい小冊子もあれば、九冊のノート・ブックからなるロッチデール・パイオニアズの一人が記入した消費組合の記録もある。その中には、ロッチデール消費組合の略史を書いた一冊のノート、一八四四年八月十一日のこの組合の発起人第一回総会から一八八二年七月二〇日までの役員会議事録をまとめた一冊のノート、一八三三年から一九三八年までのこの組合の歴史を書いた一冊のノート、一八三〇年から一九四一年までのこの組合の歴史、とくに教育部門の記述を主とした六冊のノートなどがある。

これらのノートをみれば一八四四年八月十一日の組合の發起人總會の様子とか、一八四四年十二月二十一日のトード街で開店したときの様などが手にとるようになる。例えば「サムエル・アシユワーズ（売子）が勘定台のうしろでお客を待っていたが、しばらくして一人の婦人が勇気を出して、店へ入って来て一ポンドの砂糖を買った。これがこの店の最初の買物であったので、アシユワーズはそれを包装しながら、一寸ばかり困っていた……」などと書かれている。またこれらのノートには一八四四年の創立当時から一九三九年頃までの組合長、書記、会計、出納方、支配人などの名簿も含まれている。

ホリヨークがつくったロッチデル組合の二十八人の創立者たちの墓表とその詳細な解説とからなるノートがあり、二十八人の創立者たちの詳しい経歴を知ることができる。また一八四〇年代の食料品価格の入った消費組合の現金出納帳もある。

以上は外池文庫の一斑を紹介したものであるが、イギリス協同組合運動ないし社会主義運動の研究者にとっては、この文庫は良き資料を提供するであろう。

〔本稿は、『一橋論叢』第四五巻第一号、昭和三十六年、から再録したものである〕

（前一橋大学附属図書館幹事）